横浜医学，61，575-579（2010）

原　著

若年者胃癌手術症例の臨床病理学的検討

玉川　洋，佐藤　勉，山本直人，大島　貴，
湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，今田敏夫

横浜市立大学医学部 外科治療学

要　旨：1976年１月から2000年12月の間に施行された胃癌手術症例976例に対して，40歳未満の53例を若年者，40歳以上75歳未満の795例を壮年者，75歳以上の128例を高齢者と分類し，予後を含めた臨床病理学的検討を行った．若年者症例は全体の5.4%であり，患者背景として女性の割合が他群に比べ多かった．肉眼的所見では腫瘍の局在はＭ領域に多く，肉眼型は表在型が多かった．組織学的所見では低分化腺癌が有意に多かった．手術所見においては他群に比べて腹膜播種症例が多かった．予後では，全対象例，根治手術症例において他群に比べて有意に良好で，進行癌症例でも他群と同等であった．以上より若年者症例は他の年齢群と比べて，低分化腺癌が多いにもかかわらず予後は良好であり，術前併存疾患も少ないことが予想されるため，根治をめざした積極的な治療が必要であると考えられる．

Key words: 若年者胃癌（Young patients with gastric cancer），臨床病理学的検討（Clinicopathological study），予後（Prognosis），低分化腺癌（Poorly-differentiated adenocarcinoma），腹膜播種（Peritoneal dissemination）